

家賞ビュ

すま間にCO₂

感想

サイザルのちがうものははまらない

有機分子

CO₂の

回収 4x

食べ物の保存

北川さんのふとした時に気づける神経がすごいな

国内供給のつりかわり

年度	石炭 (%)	石油 (%)	天然ガス (%)	原子力 (%)	太陽光・風力・地熱・バイオマスなど (%)	総消費量 (キロリットル)
1954年度	47%	18%	0%	0%	8%	6,914万
1973年度	76%	4%	2%	1%	4%	3億8,705万
2010年度	23%	40%	18%	11%	4%	5億6,747万
2020年度	25%	36%	24%	9%	4%	4億6,340万

1954年度: 太陽光、風力、地熱、バイオマスなど 8%、石油 18%、石炭 47%、原子力 0%、天然ガス 0%。総消費量 6,914万キロリットル (原油換算)。

1973年度: 太陽光、風力、地熱、バイオマスなど 4%、石油 76%、石炭 4%、原子力 1%、天然ガス 2%。総消費量 3億8,705万キロリットル (原油換算)。

2010年度: 太陽光、風力、地熱、バイオマスなど 4%、石油 40%、石炭 23%、原子力 11%、天然ガス 18%。総消費量 5億6,747万キロリットル (原油換算)。

2020年度: 太陽光、風力、地熱、バイオマスなど 10%、石油 36%、石炭 25%、原子力 9%、天然ガス 24%。総消費量 4億6,340万キロリットル (原油換算)。

石炭が全体の47%、水力は20%、供給量は2020年度とくらべて、とても少ない。

石油が全体の4分の3を占めていた。

石油のほか、石炭、天然ガス、原子力を利用していた。

石油、石炭、天然ガスなどが中心になっていた。

石炭電力

風力発電

太陽光発電

地熱発電

水素

二酸化炭素

電力

交通網の発達
日本の交通網が充実
して始めたのは戦後
の高度経済成長期
である。1960年代
の東京オリンピック
に絡めて、おもに
が整備された。東
京都と愛知県の
名古屋を結ぶ新幹
線が建設された。新
幹線の開通により
人々の移動が便利
になり、1964年
から1965年まで
は、マイカーを持
車が目立つようになった。
今では車は身近な
存在で、車の数も
多くなっている。
今でも日本は、
高度経済成長期
の発展の勢いが
衰えず、発展し
続けている。
の移動が便利
になり、1964
便利になり、
今でも、

